

フォトニュース

いなぼうスタンプラリーを開始



▲町では、4月28日から「いなぼうスタンプラリー」を開催しています。

これは、町に寄附されたいなぼうの石像をPRして猪名川町を盛りあげていこうと企画されたもので、町内の施設10カ所に設置されているスタンプの5カ所以上を集めると、企画財政課で、認定証といなぼうのポストカードがもらえます。

スタンプカードは町ホームページからもダウンロードできます。

カスミサンショウウオを発見



▲町南部地区の山林内で、兵庫県レッドデータブックのBランク（絶滅危惧Ⅱ類＝絶滅の危険が増大している種）に指定されているカスミサンショウウオ（体長約10cm）が発見されました。

カスミサンショウウオは低い山地の林や草地に生息し、体色は茶褐色で多数の黒斑があります。

菜の花が満開



▶西畑地区では、菜の花が満開を迎え、黄色い絨毯が訪れた人の目を和ませました。
これは夏のそば栽培が始まるまでの期間を利用して、同地区の営農組合が、景観形成作物として、200aの農地一面に菜の花を植えたものです。

いながわ 歴史ウォーク ⑨8

村と水利

愛らしい苗が水田にそよぐ季節となりました。農業の主となる稲作の用水確保は、村々にとって最重要課題で、町域でも水論（水争い）の記録が3件残っています。

原には延宝4（1676）年8月の、事細かに書き込まれた「水論立会絵図」が残され、享保11（1726）年8月の木間生村・木津村水論でも、奉行所の指示により立会絵図が作成されています。

元文4（1739）年5月には、南・北田原両村が「新規用水溝切抜分水約定書」を取り交わしています。これは、屏風岩すぐ下の大井の井堰から取水する割合を、北田原村六分・南田原村四分と取り決めた



▲屏風岩の井堰

証文です。北田原村が取水していた下堰が、幾度も大破し復旧できなくなり、上堰までの用水溝新設計画が持ち上がり、現在も守られています。北田原村にも大きな影響があるため、水論となったのです。後年、明治16（1883）年5月の干ばつ時に再び水論がおき、直後に現在の石積みで改造、用水配分割合は

一緒に交通ルールを学ぼうね！



▲4月13日、うさちゃんクラブの発会式が行われ、イナホールには、125人の子ども達が大集合。うさちゃんクラブのキャラクター「びよんちゃん」と腹話術の「ふくちゃん」といっしょに、「駐車場必ず手をつないで歩く」などの約束をしました。



安全のために！



▲4月28日、大島小学校の1年生16人に、安全啓発グッズ反射材付きの黄色のポシットが届きました。これは、川西交通安全協会から内7小学校の新1年生に贈られたものです。ランドセルなどに付けてドライバーに早く自分の存在を知らせ、交通事故に遭わないことを目的としています。

▼筆の入り、はらいに気をつけながら、バランスよく書きあげました。
中尾 夢花さん（6年生）

六年 中尾 夢花
泉



▲目のかたちこだわって描きました。髪の毛もたくさん描きました。
中林 聖さん（2年生）



大島小学校



▲肌の色を工夫しました。大きくのびのびと描くことができました。
清水 悠太郎くん（2年生）

▼のびのびとダイナミックに書きあげました。「光」の輝きを感じます。
祐谷 虎太郎くん（4年生）

四年 祐谷 虎太郎
光